

* トップ対談 *

未来創造に向けて

SDGsで社会とつながる

「社会の持続的な発展が求められる中、経済界も国連の持続可能な開発目標（SDGs）の取り組みを進めています。」

谷川 金融機関はSDGsの推進役として、政府からも期待されています。特に地銀は地域のあらゆる業種、団体と接点を持つ立場にあるので、啓蒙役としても期待されています。

一例ですが、19年4月に佐川急便、SynaBizと3者で在庫の再流通支援を目的とするサービスを開始しました。

キャンパスで実証実験

「将来の社会を見据え、研究成果を社会に落とし込むことも重要です。」

金融業務においては、SDGs認証支援型私募債を取り扱っています。地域応援私募債「つなぐコロ」は、九州の未来を担う子どもの学びや成長を支援するため、発行手数料の一部を図書やスポーツ用品として学校に寄付する仕組みが付いたものです。17年に開始して以来、91社・91億7000万円が発行されました（19年12月末現在）。

他には九州の世界遺産群の保全・保存活動を支援する世界遺産応援私募債「九州ヒストリー」の実績は2社・2億円。中でも、19年10月に取扱いを開始した子ども食堂応援私募債「希望の環」は反響が大きく、12月末時点で14社・11億5000万円が集まりました。

歴史・文化面でも年末コンサート「NCB音楽祭」や地



九州大学総長 久保 千春氏

多様化する大学の役割

地域と発展、世界に飛躍

「持続可能な社会構築における九大の役割とは。」

久保 「自然災害による被害の対策につながるデザイン」など、3テーマの作品を募るSDGsデザインコンテストを実施しています。芸術系を起発するアイデア創発型のカードゲーム「街1グランプリ」を開催し、九大生にも進行役で参加してもらいました。遊びを通じて学んでもらう仕掛けです。当行が開発したカードを使って「わくわくする楽しい街のアイデア」を出してもらいました。参加者だけでなく、他企業や自治体、学校からの大きな反響に驚いております。

自然災害や温暖化、紛争、格差拡大など世界にはさまざまな問題があります。国連が問題解決に向けてSDGsを

定めたことは重要です。大学が研究や教育を通じて、社会に提言できたらと考えています。

地球温暖化については「カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所」で、低炭素社会の実現を目指す研究などを進めています。研究者育成では大学院に「持続可能な社会を拓く」学際研究大学院プログラムを設置しました。アジア・オセアニア研究教育機構では、環境資源、セキュリティ・防災、生存基盤環境など六つのクラスターを形成し、部局横断型で研究と提案をする活動が始まっています。

谷川 地域あつてこそ地銀です。だからこそ地銀は、地域の中小企業の発展と個人の資産形成のお手伝いをして地域経済を発展させます。地道に「つなぐコロ」のお取引を大切に、お客さまがより発展されるようお手伝いをします。そのために、地銀は経営資源、すなわち人材や装置をフルに活用します。

その点でSDGsは一つの柱になる考え方だと感じます。節電のような省エネの地道な積み重ねや文化・啓蒙活動を通じて、地域、ひいては国際社会全体がサステイナブルになるよう努力していくことが求められます。SDGsは機関投資家が投資対象企業を評価する際の重要な着眼ポイントとなっており、企業は社会や環境に対する貢献の度合いが問われるようになっていきます。当行は、今後もさまざまなステークホルダーに対する責任を全うして参ります。

久保 九大の誇るべき伊都キャンパス（福岡市西区）は、企業と協働し次世代に向けた最先端の研究をする「実証実験キャンパス」として生かします。エネルギー分野、自動運転、オンデマンドAIバス、電動キックボードの実証などに活用するほか、周辺に研究所や関連機関が集積したサイエンスリサーチパークも広がっていくかと思えます。



九州大学は伊都キャンパスを実証実験の場に生かす（人工知能で運行を最適化する乗り合いバス「aimo」）

公益財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団（ふくおかIST）
ふくおかISTは、産・学・官の研究交流と連携を図り産業の活性化と暮らしの向上に貢献します。

研究交流・研究開発 産学官連携による共同研究を推進し、新技術・新産業の創出を目指します。

ロボット・システム産業の振興

- ロボット・システム開発プロジェクト
ロボットやIoTなどのシステム開発支援及び人材育成に取り組んでいます。
- 社会システムの実証
IoTや半導体製品の実証環境下での実証実験や評価、改良を支援します。
- 半導体実装技術の高度化
複数の半導体チップを三次元に積層するための研究開発、試作・評価を支援します。

有機EL実用化プロジェクト
有機EL実用化プロジェクト
有機EL実用化プロジェクト
有機EL実用化プロジェクト

お問い合わせ先
公益財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団（ふくおかIST）
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目8-33
TEL:092-832-1301 FAX:092-832-1309
URL: <http://www.ist.or.jp/> e-mail: kan2008@ist.or.jp

公益財団法人 OPACK 九州大学学術研究都市推進機構

世界的な知の拠点・九州大学学術都市づくりのサポーターです。

〒819-0367
福岡市西区西部1-1-27 MJR九州大学研都市駅前1F
TEL:092-805-3677 FAX:092-805-3678

九州大学研都市等に関する情報はこちら → <http://www.opack.jp>

紹介映像

うみ・やま・さと・なごみに広がるカヌー研都市
知の創造空間づくりを目指して

■学術研究に関する広報活動
■産学官の共同研究による研究開発支援
■研究機関等立地支援
■産学連携交流支援

世界へ飛躍する九大新世紀

Leap into the Next